



## 島に受け継がれる 伝統工芸に親しむ

### つもと 久米島織の里 ユイマール館

久米島織は、国の重要無形文化財に指定されている伝統工芸。長い歴史の中で培われてきた技法を未来に伝えようと、後継者育成のために作られたのが、このユイマール館だ。館内では作業工程を見学できるほか、染め(ハンカチ)と織り(コースター)も体験できる。併設の展示資料館では、織グッズの販売も。写真のバッグは4000円台～1万円台。巾着とコサージュは各2000円。  
☎098-985-8333 ☎9:00～17:00(入館～16:30)  
☎年末年始、旧盆 ☎大人200円、子ども(中学生以下)100円 ☎<http://www.kume-tumugi.com/yui/top.htm>



亀の甲羅のような奥武島の「疊石」。石に見えるが、実は六角形もしくは柱状の岩で、厚みは地下100mくらいまで通ると考えられている。

### 久米島へのアクセス

那覇～久米島間は、日本トランスオーシャン航空(JTA)、または琉球エアコミューター(RAC)で約30分。1日5～7往復。6～9月は、JTAの東京～久米島直行便も運航する。フェリーは、那覇泊(とまり)港～久米島兼城(かねぐすく)港を1日1～2便が往復。所要時間は約4時間。

### 久米島での宿泊と交通

空港から車で約30分のイーフビーチ周辺に、リゾートホテルや民宿が集中している。また、島内の交通はタクシーや町営バスもあるが、自由に動けるレンタカー(3社がある)が便利だ。  
☎久米島観光協会 ☎098-985-7115  
☎<http://www.kanko-kumejima.com/>

● 那覇島の地図



# 一周ドライブの旅。

「これが同じ島?」と、目を疑うほど、変化に富んだ景色が展開するのも久米島のおもしろさです。



## 甘さが違う農園の トロピカルジュース

### 赤嶺パイン園

広大なパイン畑を眺めながら、収穫したての甘～いパイナップル(1箱500円、5～10月)や、季節のトロピカルジュース300円を味わうことができる。「昔は大きな缶詰工場があり、パイナップル栽培が盛んだったけれど、今ではうちが島唯一のパイン園です」とオーナー。夏場はマンゴーやドラゴンフルーツもメニューに登場。観賞用のミニパインと手作りジャムのセット500円(写真上・左)は、おみやげにおすすめだ。

☎098-985-4651 ☎9:00～18:30  
☎不定休

## 手作りの素朴な 名産品が一堂に

### おやつ村

イノー敷でご一緒した仲間ファミリー(→P26～27)が営む、おみやげ屋さん。扱う商品は、素朴なお菓子や島の古老が作ったシーサーなど、どれも作り手の顔が見えるようなものばかりだ。だが、看板商品は何と言っても、仲間家のおじいちゃんを作る、ふくよかな味わいの黒糖(1袋200円)。サトウキビの栽培に始まり、しぼり、かまど炊き、煮詰めて完成させるまで、全工程がほぼ手作りというから驚きだ。本人そっくりの似顔絵が目印。  
☎098-985-8115 ☎(5～9月)10:00～19:00、(10～4月)10:00～18:00 ☎日曜  
☎<http://oyatsumura.m-kumejima.com/>



「はての浜」へは、グラスボートで行くツアーがおすすめ。運がよければウミガメに遭遇するかも  
☎久米島海洋レジャー協同組合 ☎098-985-8779

